

議題 1. 2016 年度事業報告

I. 総務会

1. 委員

担当理事 河合 富士美（専務理事・聖路加）、城山 泰彦（順大）[2016年6月より]、
児玉 関（東邦大医）、諏訪部 直子（杏大医）、坪内 政義（個人）[2016
年5月まで]

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 4月15日
第2回 6月9日
第3回 7月22日
第4回 10月21日
第5回 12月22日
第6回 2月17日

2) 第87回総会を2016年5月26日にホテルアバローム紀の国（和歌山市）にて開催した。

3) 第88回（2017年度）総会を2017年5月19日（金）に聖路加国際大学（東京都）にて開催することとし、実行委員会（委員長:河合専務理事）を立ち上げた。

4) 第89回（2018年度）総会の開催を東京都に内定し、会場の検討を開始した。

5) 2016年度地区会事務局連絡会議を2016年12月9日に開催した。

6) 2016年度委員長会議を2017年1月18日に開催した。

7) 韓国医学図書館協会秋季学術大会（2016年10月13日~14日）に富田理事と松田真美氏（医中誌）を派遣した。

8) ファイルサーバによる文書管理システムの運用を開始した。

9) 国立国会図書館への蔵書寄贈システム構築を企画・広報委員会の担当業務とした。

10) 地区会に理事と事務局長代理を派遣した。（2016年11月10日北信越、2017年2月24日東海）

11) 奨学基金の使い方については次年度に継続審議とした。

12) 機能評価制度については次年度以降に受託事業として調査研究を開始することとした。

13) 故・宇野彰男氏の思い出をまとめた文集を総務会が主導し作成した。また、寄付金の使途につき検討した。

14) 理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

15) その他、担当委員会があるものは、当該委員会の事業報告を参照

16) 諸般の事情により事務局を移転した。

3. 事業別報告

1) 医書電子化検討ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 児玉 闕 (東邦大医)

委員 角谷 永 (慶大医)、河合 富士美 (聖路加)、今野 穂 (札医大)、
田口 宣行 (埼医大)、吉岡 文 (浜医大)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 6月6日

第2回 9月30日

第3回 1月27日

②日本医書出版協会(JMPA)との意見交換

JMPA との間で、国内医書電子化に関する意見交換を3度行った。JMPA では、
医書.jp を立ち上げ、2016年6月から個人向けサービスを開始した。施設向けサ
ービス実現に向け、JMPA が提案する提供モデルについて、意見交換をした。

③国内医書利用実態調査

2015年度に実施したアンケート結果について、集計・分析をした。分析結果の
まとめを行っているが、2016年度内の報告はできなかった。

(3) その他の報告事項

総務会、雑誌委員会と合同で、STM・JMPA・JMLA 円卓会議(2016年6月2日)
に出席した。

(4) 今後の課題

①JMPA との国内医書電子化に関する意見交換の継続

②国内医書利用実態調査の報告

2) からだとこころの情報センターワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

委員長 磯野 威 (個人)

委員 阿部 信一 (慈恵大)、及川 はるみ (聖路加)、成田 俊行 (個人)、
舟田 彰 (個人) [2016年5月まで]、渡邊 基史 (個人) [2016年6
月から]

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 5月18日

第2回 9月9日

第3回 2月17日

②からだとこころの情報センターホームページについて

・ からだとこころの情報センターホームページ上に新たなコンテンツとして医
療・健康情報サービス拠点マップ(仮称)を掲載するための準備を行った。

- ・会員を対象にした医療・健康情報サービス拠点マップ(仮称)のアンケート結果を集計した。
 - ・健康情報サービス拠点マップ(仮称)の仕様を検討した。
 - ・公開までのスケジュールを立てた。
- ③からだところの情報センターワーキンググループ事業の再検討について
- ・第 87 回通常総会の役員改選等があり、からだところの情報センターワーキンググループは、医療・健康情報委員会下部から総務会直轄に位置付けられた。
 - ・からだところの情報センターワーキンググループ事業は、「国立ヘルスサイエンス情報センター」実現に関連した取り組みだったが、国立ヘルスサイエンス情報センター検討委員会が休会となったため、個別の事業のみが独立して活動する形となってしまった。そこで総務会で、からだところの情報センターワーキンググループの事業と運営方法を再検討することとなった。
 - ・検討の結果、からだところの情報センターワーキンググループを休止することとなった。からだところの情報センターサイトも一時休止とし、健康情報サービス拠点マップ(仮称)も保留とすることとなった。一方、JMLA として患者・一般市民向け支援は必要と考え、これに関する事業を運営できる委員会設置を 2017 年度に総務会で検討することになった。

(3) 今後の課題

患者・一般市民向け支援に関する事業を運営できる委員会設置を 2017 年度に総務会で検討する。

4. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員 A

東北医科薬科大学附属図書館

正会員個人 8 名

退会

正会員個人 2 名

2017 年 3 月 31 日現在の会員数

正会員 A 99 機関

正会員 B 45 機関

正会員個人 108 名

協力会員 2 機関

維持会員 17 機関 (団体)

維持会員 2 名 (個人)

2) 寄付 (助成金)

株式会社紀伊國屋書店

丸善雄松堂株式会社

宇野彰男氏ご家族

3) その他

資料の共同購入ほか

図書館年鑑 34冊 493,000円

インセットテープ 26、27回 合計118,200本 115,888円

NLM 複写依頼 3,079件 3,861,600円

KMLA への文献複写提供実績 3件

II. 企画・広報

1. 委員

担当理事 城山 泰彦（順大）

委員長 未定

委員 川崎 かおる（岩医大）、黛 崇仁（東邦大医）

会員統計担当ワーキンググループ

青木 裕子（天理病）、田中 律子（滋慶院大）、徳江 紀子（国がん）

重複交換担当ワーキンググループ

青木 裕子（天理病）

要覧担当ワーキンググループ

曾田 昌弘（関医大）

ホームページ担当ワーキンググループ

藤沢 靖子（杏大医・グループ長）、森田 ゆかり（藤田学園大）、

曾田 昌弘（関医大）、鷹野 祐子（都医学研）、及川 はるみ（聖路加）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 3月7日

旧企画・調査委員会担当理事・委員との業務引継ぎ確認 7月14日

旧広報委員会担当理事との業務引継ぎ確認 7月22日

ホームページ担当ワーキンググループ 業務手順確認 7月29日

2) 企画・広報委員会

(1) 委員会体制の整備

旧企画調査委員会と旧広報委員会が統合して設置された。旧委員会から引き継いだ活動を、企画・広報委員会のもと4つのワーキンググループ(WG)で対応する。

(2) JMLA パンフレットの更新

旧広報委員会からの引継ぎ事項。掲載内容を確認して2016年8月25日に発行した。

(3) 委員会の方向性の確認

それぞれのWGの活動が円滑に進むよう調整・支援することを最優先課題とし、“2016年度～2019年度 重点事業目標”を指針とした事業計画の策定を進める。

3) 会員統計担当 WG

(1) 第 87 次会員統計

2016 年 10 月 17 日に完成版をウェブサイトに掲載した。WG 委員による提出データの確認を行ったが、併せて中間版を基に会員でも提出データを確認する方式とした。

(2) 第 88 次会員統計に向けて

データ提出をウェブフォームで行えるよう整備を進めるとともに、統計項目の再検討を行った。(医療・健康情報委員会と雑誌委員会に関連する項目)

4) 重複交換担当 WG

(1) 重複雑誌交換メーリングリスト (ML)

会員 ML に案内して、重複雑誌交換 ML のメンテナンスをした。

(2) 第 67 回 (2016 年度) 重複雑誌交換事業の実施

2016 年 8 月 22 日に案内状を送付し、交換期間を 2 回設けた。第 1 回 (データ送付 : 2016 年 8 月 29 日 ~ 9 月 16 日、交換 : 2016 年 10 月 3 日 ~ 21 日) と、第 2 回 (データ送付 : 2017 年 1 月 16 日 ~ 2 月 3 日、交換 : 2017 年 2 月 20 日 ~ 3 月 10 日) で実施した。実績報告書は 2017 年 3 月 24 日 〆切、集計結果は機関誌とウェブサイトに掲載

(3) 第 68 回重複雑誌交換に向けて

例年通りのスケジュールですすめられるよう検討する。

5) 要覧担当 WG

(1) 『要覧 2016-2017』冊子体の発行

① 組織・制度委員会から規程集、中央事務局から各種資料を提出いただき、定例原稿と合わせて掲載原稿を編集・確認した。2016 年 10 月 21 日に完成

② 今回から隔年発行となるため、号数表記を“2016-2017”として編集後記で説明した。

(2) 『要覧 2016-2017』のウェブサイト公開

① 『要覧 2016-2017』の全文 PDF ファイルを、ウェブサイトに掲載した。

② 冊子体発行以降に改訂された規程や名簿等は、組織・制度委員会とホームページ担当 WG の共同により、速やかに最新版を本会ウェブサイト上に掲載する。(冊子とウェブサイトの掲載内容が異なる場合はウェブサイトを優先する)

6) ホームページ担当 WG

(1) ウェブサイト更新体制

更新に必要なソフトウェアを中央事務局で契約し、ホームページ担当 WG と中央事務局の双方で更新できるよう役割分担した。現時点で、ほぼ遅延なく更新できている。

(2) ウェブサイトの構築の検討

3. その他の報告事項

1) JMLA メーリングリストの管理・運用

2) ウェブサイト更新依頼フォームの作成

3) JMLA ロゴマークの確認

4) 会員統計未提出館への対応

4. 今後の課題

- 1) 委員会体制の構築
- 2) 委員会・WGの作業手順・業務分掌の明文化・マニュアル整備
- 3) ファイルサーバを活用するとともに、ウェブシステム等の導入を検討していく。
- 4) 会員統計項目の追加・修正
- 5) “2016年度～2019年度 重点事業目標”を指針として、事業計画を策定する。

Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集

1. 委員

担当理事 平 紀子（個人）

委員長 大谷 裕（東邦大医）

委員 浅野 泉（旭医大）、石井 恵（個人）[2016年11月より]、伊藤 智輝（北里白）[2016年12月より]、大野 圭子（個人）、笹谷 裕子（杏大医）[2016年5月まで]、菅 修一（個人）、高畑 亜紗美（東医大）[2016年9月まで]、藤村 三枝（滋医大）、百留 悦子（埼医大）、若田部 純子（医中誌）[2016年5月まで]

協力委員

田邊 千雪（北大）[2016年5月まで]、吉田 唯（北医療大）[2016年6月より]、菅野 久美子（秋大医）、相澤 まゆみ（都済生中央）、伊東 洋輔（信大医）[2016年5月まで]、原 猛（長野看大）[2016年6月より]、吉岡 文（浜医大）、山下 ユミ（京府医大）、田尻 千浪（産医大）[2016年5月まで]、高橋 知江（久大医）[2016年6月より]

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 6月20日

第2回 10月20日

第3回 1月23日

2) 「医学図書館」（年4号）の刊行

(1) 各号の定期刊行を維持した。

① 「医学図書館」（63巻2号）2016.6.20 発行

特集：第22回医学図書館研究会・継続教育コース

② 「医学図書館」（63巻3号）2016.9.20 発行

特集：ゾーニング

③ 「医学図書館」（63巻4号）2016.12.20 発行

④ 「医学図書館」（64巻1号）2017.3 発行

3) 編集体制の安定化を進める。

編集協力委員の補充を図った。

4) 本誌電子化についての検討

電子化のプラットフォームとして J-STAGE を候補とした検討を行い、2016年10月25日の理事会において2017年度予算確保承認の申請を行った。審議の結果、データ作成方法については再検討の余地があること、機関誌の電子化については、会費との兼ね合いや広告収入等付随した問題があるとのことで、委員会で再検討するとともに継続審議となった。このうち「データ作成方法についての再検討」については、2017年1月10日に出版事業に詳しい中西理事と十一房印刷で打ち合わせを行った。

3. その他の報告事項

2016年度活動報告で、課題となっていた「編集協力委員の委嘱手続きの確立」については、2016年5月より JMLA から編集協力委員は委嘱する手続きが開始された。

IV. 出版

1. 委員

担当理事 水上 則子 (京大医)

委員長 白土 裕子 (医中誌)

委員 吉新 裕昭 (獨協医大)、原 千延 (国医情)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 4月22日

第2回 7月5日

第3回 10月12日

第4回 3月15日

2) 出版について

(1) 2016年度発行の書籍については、該当のワーキンググループ/著者と連携して発行、もしくは発行に向けて準備した。

①「図解 PubMed の使い方 第7版」の冊子を2016年11月1日付けで発行した。

②「図解 PubMed の使い方 第7版」の電子版発行について対応した。

③「やってみよう図書館での医療健康情報サービス 第3版」の冊子を2017年2月17日付けで発行した。

④「やってみよう図書館での医療健康情報サービス 第3版」の電子版発行について対応した。

⑤「米国国立医学図書館分類法 2016年版 日本語版」出版に向けて準備を進めた。

(2) 2016年度に増刷・改訂予定となっていない書籍にも、在庫状況や内容を考慮して

今後の増刷・改訂を計画していく。

- ① 新規出版について協議した。

3. その他の報告事項

1) 支出費用について

- (1) 「図解 PubMed の使い方 第7版」印刷費には、電子書籍販売用 PDF データ作成を含む。

2) 収入について

- (1) 「図解 PubMed の使い方 第7版」について
冊子体販売委託業者と協議し、今年度は12月末および3月末の清算とした。
- (2) 「やってみよう図書館での医療・健康情報サービス 第3版」について冊子体販売委託業者と協議し、清算は次年度からとした。

3) 電子書籍の発行について

冊子体刊行物を順次電子書籍として発行することとした。取扱い業者を比較検討した結果、二社に依頼することとなった。

4) 刊行物の著作権について

予め執筆者から著作権譲渡の承諾を得て進められるよう、刊行物著作権に関する内規や執筆依頼書の修正を提案した。

4. 今後の課題

HTML方式の電子書籍の発行を模索する。

V. 雑誌

1. 委員

担当理事 富田 麻子（日医大中）

委員長 田口 宣行（埼玉大）

委員 角家 永（慶大医）、川島 恵里香（東医大）、鷹野 祐子（都医学研）、
登坂 善四郎（神奈こ）、宮本 高行（阪医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 7月 7日

第2回 9月 5日

第3回 1月12日

2) コンソーシアム提案交渉

日本薬学図書館協議会（JPLA）雑誌問題検討委員会と合同で、出版元・代理店と2017年契約に向けたコンソーシアム提案の交渉を延べ19回、2018年契約に向けた交渉を延べ3回行った。

3) 新たなコンソーシアム提案の獲得

新規提案として、Oxford University Press の教育・研究・学習をサポートするオンライン学習コースである Epigeum、医学書院の Net Dictionary、JoVE からビデオ学習誌のパッケージを得た。また、長年トライアルとして提供されてきた Mary Ann Liebert 社の電子ジャーナルパッケージを正式な提案商品として得ることができた。

4) コンソーシアム説明会の開催

JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、コンソーシアム説明会を京都と東京で開催した。京都説明会では、近畿地区会に協力いただいた。

(1) 京都会場：2016年9月2日（金） 京都テルサ

参加者：39名（JMLA21名、JPLA18名）

参加企業：17社（展示17社、プレゼンテーション17社）

*実行委員7名（JMLA4名、JPLA3名）（参加者数に含む）

(2) 東京会場：2016年9月6日（火） マイナビルーム

参加者：110名（JMLA64名、JPLA46名）

参加企業：18社（展示18社、プレゼンテーション17社）

*実行委員12名（JMLA6名、JPLA6名）（参加者数に含む）

5) 他コンソーシアムとの連携

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と AAAS/Science についての合同交渉を行ったが、提案内容などを十分に精査し出版社と話し合いを行った結果、提案提示の遅れによる会員館の混乱を避けるため、2017年向けについては JMLA/JPLA コンソーシアムだけの提案受け入れとなった。

6) 他コンソーシアム提案との価格差是正

他コンソーシアムと同じ提案については価格差が出ないように出版社・代理店側に交渉したほか、他コンソーシアムと交渉期間の違いが出ないように説明会開催日を近づけるように設定した。

7) リバースチャージに関するフォロー

コンソーシアム説明会会場で実施したアンケートにリバースチャージの支払いに関する項目を設けた。結果はホームページ等で公開した。

3. その他の報告事項

1) JMLA/JPLA コンソーシアム説明会に関するアンケートを実施し、結果はホームページと『薬学図書館』に掲載した。また、2011年からの『医学図書館』、『薬学図書館』に掲載した過去の調査結果をホームページで公開した。

2) コンソーシアム提案に関するアンケートを正会員 A、B を対象に行った。

3) 2016年4月より、江幡委員（東邦大医）が異動のために JMLA 委員を退任し、JPLA 委員となった。2016年6月より、富田委員長（日医大中）が担当理事となったため、田口委員（埼玉大）が委員長となった。2016年12月より、登坂委員（神奈こ）がメンバーに加わった。

4) 担当理事が韓国医学図書館協会（KMLA）秋季学術大会に出席し、コンソーシアムの現状についての意見交換を行った。

- 5) 2016年6月のJMLA/JMPA/STM 円卓会議に富田理事、田口委員長、角家委員が出席した。
- 6) コンソーシアム提案書の統一書式を作成し、提案内容がより理解しやすいよう会員への便宜を図った。
- 7) コンソーシアム提案の多様化や、雑誌分担購入事業の中止を受け、委員会名称について検討した結果、2017年度より「学術情報コンソーシアム委員会」を新名称として理事会に提案した。

4. 今後の課題

- 1) 出版社の合併などによる提案内容変更への迅速・的確な対応
- 2) 他コンソーシアムの動向への注視

VI. 教育・研究

1. 委員

担当理事 酒井 由紀子（個人）

委員長 加藤 砂織（東女医大）

副委員長 西村 志保（日医大中）

委員 大瀬戸 貴己（奈医大）、佐藤 正恵（個人）、佐山 暁子（聖路加）、
三谷 三恵子（慶大医）

JMLA コア研修ワーキンググループ

グループ長 小松崎 直子（東歯大）

委員 尾形 沙由美（聖マ医）

JMLA 学術集会ワーキンググループ

グループ長 吉沢 亜季子（慶大医）

委員 工藤 千絵（帝京大医）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 7月 8日

第2回 10月 7日

第3回 12月 2日

第4回 2月 3日

JMLA コア研修ワーキンググループ会議

第1回 5月 9日（電子メールによる書面会議）

第2回 7月 6日（電子メールによる書面会議）

第3回 7月 8日

第4回 10月 7日

第5回 2月 28日（電子メールによる書面会議）

第6回 3月17日

JMLA 学術集会ワーキンググループ会議

第1回 2月3日(教育・研究委員会との合同会議)

2) 第1回 JMLA コア研修開催

日程：2016年8月8日(月)～9日(火)

会場：Learning Square 新橋

受講者数：48名(部分参加含：JMLA38名、JPLA2名、その他8名)

3) 第1回 JMLA 学術集会開催

日程：2016年5月27日(金)

会場：アバローム紀の国(和歌山市)

午前：研究発表5題(KMLA招待発表含む)

午後：CEコース

「医療における情報の価値とは何か：バリュー・スタディへの招待」

「病院のEBM教育・実践に係る医学図書館機能「情報検索環境」と「司書」の役割」

参加者数：129名(JMLA126名 その他3名)

4) 第18回図書館総合展フォーラム(JMLA/JPLA共催)

日程：2016年11月8日(火)15:30～17:00

会場：パシフィコ横浜 第3会場(アネックスホール203)

テーマ：『かかりつけ薬剤師』が変える、市民と薬剤師の医療・健康情報共有
—図書館の役割を探る—

参加者数：88名(JMLA24名、JPLA17名、その他47名)

5) 助成募集

(1) 研究助成

2017年度の募集をおこなったが、応募がなかった。

(2) 海外研修助成

応募促進のための施策として2017年度より前年度募集となったため、本年度に限り2016年度と2017年度の2件の募集をおこなった。その結果、各年度1名ずつの応募があり、審査の結果2件の助成が決定した。

6) MLA International Visiting Health Information Professionals Program (I-VIP)派遣者公募

公募の要件を検討し、規程案を作成した。

7) 学術集会ワーキンググループ募集

ワーキンググループメンバー2名の募集をおこなった。その結果2名の応募があり、決定した。

8) 学術集会抄録集のISSN取得準備

第2回学術集会も総会の翌日に行なわれることになり、抄録集は総会資料に含まれることになった。従って、ISSN取得の検討は次年度以降となる。

9) JMLA-CE登録制度の検討と実施

登録の申請要件を検討、手順を策定した。登録申請関連書類を作成し、募集開始した。

- 1 0) 新研修制度への移行に対応したホームページの作成
コア研修、学術集会、JMLA-CE コースのページを作成し、公開した。
 - 1 1) 新研修制度の関係団体への案内
2016年4月13日、近畿病院図書室協議会、日本看護図書館協会、日本農学図書館協議会、日本病院ライブラリー協会、日本薬学図書館協議会の5団体へ郵送にて案内を送付した。
 - 1 2) 研究助成費及び海外研修助成費給付規程の改訂
研究助成費及び海外研修助成費給付規程は、改訂により研究助成費給付規程と海外研修助成費給付規程に分離してそれぞれ施行された。
3. その他の報告事項
- 1) 各助成の成果報告の『医学図書館』誌への投稿状況を、毎年度始めに確認することとした。
 - 2) 第2回学術集会は独立開催予定であったが、総会翌日開催に変更になった。
 - 3) MLA International Visiting Health Information Professionals Program (I-VIP)派遣者公募は、組織制度委員会からの提案により、海外研修助成の枠組みに含めることとし、海外研修助成費給付規程内で行うこととした。
4. 今後の課題
- 1) 2018年度以降の学術集会の実施時期を検討する。
 - 2) 「文献検索講習会ガイドライン 医中誌 Web・PubMed ベーシック・アドバンスト・プロフェッショナルコース」を見直す。
 - 3) 2017年度医中誌・PubMed 検索講習中級(仮)を実施する。
 - 4) 韓国への図書館見学ツアーを検討する。
 - 5) E-ラーニングの検討

VII. 医療・健康情報

1. 委員

担当理事 國見 裕美(徳大蔵)

委員長 市川 美智子(愛医大)

委員 岡田 光世(東邦大医)、西 さやか(東医大)、野中 沙矢香(杏大医)

医療・健康情報ワーキンググループ

グループ長 渡邊 基史(個人)

委員 荒木 亜紀子、佐竹 かおる、中島 ゆかり(個人)、舟田 彰(個人)、
松田 公利

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 7月 6日

第2回 10月 3日

第3回 12月 19日

第4回 3月 1日

医療・健康情報ワーキンググループ会議

第1回 8月 24日

2) 『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス』第3版の編集・校正

(1) 2017年2月17日に発行

3) 講師育成の継続

(1) 「医療・健康情報サービス研修会の進め方」と「スライドのひな型」

『やってみよう～』第3版及び研修会実施の経験から得られた修正点の反映を継続中 作業はワーキンググループが担当している。

(2) 医療・健康情報サービス研修会受講者に対するフォローアップの実施

第1回、第2回研修会受講者と委員及びワーキンググループによる、メーリングリストの運用を8月に開始した。2017年3月末現在の登録者数は39名

4) 研修会の企画と実施

(1) 第3回医療・健康情報サービス研修会の企画（2017年度開催予定）

関西方面での開催について検討を行った。

(2) 医療・健康情報サービス実施館見学会の企画と実施

計画を変更し、過去の当委員会主催研修会参加者に対する「フォローアップ研修」を開催した。

名 称：2016年度第1回医療・健康情報サービス研修会フォローアップ研修

日 時：2017年2月21日（火）10時～16時15分

会 場：東邦大学大森キャンパス医学部3号館第4講義室

受講者数：20名（JMLA9名、JPLA0名、その他11名、うち過去研修会参加者13名）

5) 各地区会への協力要請についての検討

地区会での研修会実施等の協力依頼について、検討を行った。

6) 医療・健康情報サービスの状況把握

会員統計における調査項目の追加・変更、並びに公共図書館及び病院における現状調査について、検討を行った。

3. 今後の課題

1) 国内における医療・健康情報サービスの状況について、毎年あるいは隔年で調査を実施し、経年的なデータを蓄積するとともに、研修プログラムや出版物へ反映させることが必要と考える。

2) 図書館における医療・健康情報サービスが広がり、各地で特徴あるサービスが展開され、また、様々な研修会等が開催されるようになったことから、研修プログラム

について、他との差別化が必要と考える。

- 3) 研修会の各プログラムについて、Eラーニングでの提供の要望が、受講者アンケート等で出されている。

VIII. 認定資格運営

1. 委員

担当理事 北川 正路（慈恵大）

委員長 阿部 潤也（東歯大）

委員 小林 晴子（愛医大）、中島 裕美子（埼玉医大）、永田 治樹（立教大）、
山崎 むつみ（静岡がん）、山下 ユミ（京府医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 5月13日

第2回 8月18日

第3回 9月29日

第4回 2月9日

2) 申請募集と認定審査

(1) 第26回募集（2016年7月受付、9月認定）

審査件数：32

認定件数：32（基礎15、中級3[新規3]、上級14[新規3]）

(2) 第27回募集（2017年1月受付、3月認定）

審査件数：17

認定件数：17（基礎16、上級1[更新1]）

(3) 資格取得者の現存数

第27回募集までで427名

（基礎352名、中級20名、上級55名）

3) 新認定制度移行への作業

第27回募集より新認定制度に移行した。基礎は1、中、上級は1-4を変更点としてアピールを行った。

- 1 倫理綱領に対する宣誓署名の提出
- 2 モデル活動に関する申告
- 3 英語レベルの証明書の提出
- 4 専門職団体での活動ポイントの加重

上記変更に伴い、申請書式の整備及びホームページの更新を行った。

4) 新認定制度でのポイント制度

上級について、専門学協会活動への参画のうち、本会に関わる活動を必須とした。

5) プロモーショングッズ

イメージロゴを活用したプロモーショングッズとしてバッヂを制作した。既取得者には第 87 回総会（2016 年 5 月開催）にて配布を行った。26 回募集以降は認定者に認定証と合わせて送付を行っている。

6) 申請促進のための情報発信

新認定制度への改訂を踏まえて、申請者が申請しやすくなるように、申請書類やサイト掲載の説明の改訂を行った。また「JMLA 認定資格スケジュール」や「JMLA 研修時間数一覧」の情報も改訂を行った。

3. 今後の課題

- 1) 各種イベントのポイント対象可否についての事前確認への対応を検討する。
- 2) 司書資格なしの方への対応を検討する。
- 3) 関連委員会との連携をはかり、公共図書館員向けの対応について検討する。

Ⅷ. 受託事業

1. 委員

担当理事 河合 富士美（聖路加）、諏訪部 直子（杏大医）

委員長 河合 富士美（聖路加）

委員 総務会兼務

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- (1) 委員会として会議は持たず、総務会で全体を統括した。
- (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。

2) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ

※詳細は事業別報告を参照

3) 医学中央雑誌刊行会受託事業

- (1) 米国国立医学図書館分類法（NLMC）日本語版作成を継続した。
- (2) 医療における情報のバリュー・スタディを開始した。

※詳細は事業別報告を参照

3. 今後の課題

- 1) 新規受託事業の開始（1 年目）
- 2) 医療における情報のバリュー・スタディの終了（3 年目）

4. 事業別報告

1) 診療ガイドラインワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 諏訪部 直子（杏大医）

グループ長 阿部 信一（慈恵大）

委員 天野 いづみ（個人）、石原 千尋（名大医）、柿田 憲広（個人）、加藤 恵子（国がん）、金田 佳子（富大医薬）、河合 富士美（聖路加）、川崎 かおる（岩医大）、國見 裕美（徳大蔵）、小嶋 智美（個人）、佐藤 正恵（個人）、高橋 奈津子（聖隷浜）、寺澤 裕子（個人）、成田 ナツキ（個人）、堀米 拓哉（日大歯）、満岡 侑子（連中）、森正 智子（昭和大）、山崎 むつみ（静岡がん）、山口 直比古（個人）、吉野 晴美（個人）、愛知医科大学医学情報センター（代表：小林 晴子）、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館（代表：中瀬 範子）、杏林大学医学図書館（代表：諏訪部 直子）、慶應義塾大学信濃町メディアセンター（代表：三谷 三恵子）、滋賀医科大学附属図書館（代表：寺升 夕希）、信州大学附属図書館医学部図書館（代表：青木 綾乃）、東京慈恵会医科大学学術情報センター（代表：阿部 信一）、東京女子医科大学図書館（代表：三浦 裕子）、東邦大学医学メディアセンター（代表：大谷 裕）、名古屋市立大学総合情報センター川澄分館（代表：久田 睦美）、奈良県立医科大学附属図書館（代表：鈴木 孝明）、日本医科大学図書館（代表：渡辺 由美）【下線＝リーダー】

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回リーダー会 6月24日
第2回リーダー会 1月13日
第1回WG会議 8月26日

②受託状況

21学会・研究班より23ガイドラインを新規に受託した。（詳細は別紙参照）

③研修会の開催

2016年8月25日～26日に文献検索講習会上級を聖路加国際大学にて開催した。
38名（内、非会員3名）が受講した。

④受託料金の見直しと覚書の改訂を行った。

⑤CQと検索式のデータベース化、文献検索リストやCQ・KW・代表文献リスト等関係文書の集中管理は未着手となった。

⑥診療ガイドライン、系統的レビュー作成に関する連絡会への参加

システマティック・レビューや診療ガイドライン作成のための文献検索に関わりのある、他団体と連絡会に、グループ長と理事が参加した。

(3) 今後の課題

①今年度未着手となったCQと検索式のデータベース化、文献検索リストやCQ・KW・代表文献リスト等関係文書の集中管理に取り組む。

②診療ガイドライン作成の需要に対し、対応できるワーキングメンバーとリーダーが不足しているため、拡充・養成する必要がある。

③文献検索講習会上級を見直し、診療ガイドライン作成支援のための文献検索講習会に特化する。

2) 米国国立医学図書館分類法 (NLMC) 日本語版作成ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)、諏訪部 直子 (杏大医)
グループ長 小嶋 智美 (個人)
委員 鷹野 祐子 (都医学研)、橋本 郷史 (東邦大医)、廣瀬 洋 (埼玉大)、滋賀医科大学附属図書館 (田村 峻一、寺升 夕希)
アドバイザー 阿部 信一 (慈恵大)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

① 委員会の開催

第1回 6月24日

第2回 10月13日

② 達成状況

・ 翻訳・索引作成・版下作成

終了し、入稿した。

・ 出版

出版委員会に委任した。発行は6月予定

(3) 今後の課題

① 電子版の発行

② 更新体制の構築

3) 医療における情報のバリュー・スタディ・ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)、諏訪部 直子 (杏大医)
グループ長 酒井 由紀子 (個人)
委員 佐藤 正恵 (個人)、渡辺 真希子 (神奈こ)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

① 委員会の開催

第1回 7月27日 第2期調査準備

第2回 2月13日 第2期結果分析・発表計画

② 委員の増員

・ 第2期調査に向けて、委員を1名増員した。

③ 第1期調査の報告・発表の準備と実施

・ 第87回総会 (5月26日) で報告を行った。

・ 第1回学術集会 (5月27日) のJMLA-CEとして講演を行った。

・ 「医学図書館」に第1期調査の報告記事を投稿し、掲載された。(63巻2号 p.197-200)

④ 第2期調査の準備と実施

・ 4～8月に第2期調査の参加協力病院の募集広報をし、5病院から応募があった。

・ 10～11月に第2期のウェブアンケート調査を実施し、382件の有効回答を得た。

・ 11月に第2期のインタビュー調査を実施し、計14名の参加協力を得た。

・ 第2期調査の分析と報告の準備をする。(12月～3月)

⑤外部の報告・発表先の選定と準備

・10月にMLA年次大会(2017年5月開催)のポスター発表に演題と抄録の一部を提出して応募し、12月に受理された。

・11月にMLA年次大会ポスター発表の渡航費のために、海外助成に佐藤正恵委員が応募し、12月に承認された。

・2月に論文投稿先および論文と報告書の内容の検討を行った。

・2～3月にMLAポスターおよび投稿論文の準備を開始した。

(3) 今後の課題

①MLA年次大会ポスターの作成と発表(2017年5月)

②論文投稿先の決定と論文投稿(2017年6月)

③報告書作成(2017年8月～2018年3月まで)

2016年度受託事業 診療ガイドライン一覧

ガイドライン名		学会等
GL1601	特発性大腿骨頭壊死症 診療ガイドライン	厚生労働科学研究費補助金
GL1602	口唇裂・口蓋裂診療ガイドライン2017	日本口蓋裂学会
GL1603	好酸球性消化管疾患診療ガイドライン	国立成育医療研究センター
GL1604	乳がん患者の妊娠出産と生殖医療に関する診療の手引き	日本がん・生殖医療学会
GL1605	発熱性好中球減少症(FN)診療ガイドライン	日本臨床腫瘍学会
GL1606	腎癌診療ガイドライン改訂	日本泌尿器科学会
GL1607	サルコペニア診療ガイドライン	日本サルコペニア・フレイル研究会
GL1608	在宅医療ガイドライン	日本老年医学会、日本在宅医学会、国立長寿医療研究センター
GL1609	がん薬物療法における曝露対策合同ガイドライン改訂版	日本がん看護学会、日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会
GL1610	急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン(Tokyo Guidelines:TG)改訂・出版プロジェクト	日本肝胆膵外科学会
GL1611	子宮体がん治療ガイドライン 改訂版	日本婦人科腫瘍学会
GL1612	高齢者のがん薬物療法ガイドライン	日本臨床腫瘍学会
GL1613	乳癌診療ガイドライン	日本乳癌学会
GL1614	C型肝炎母児感染小児の診療ガイドライン	日本小児栄養消化器肝臓学会
GL1615	難治性稀少部位子宮内膜症(肺・胸膜子宮内膜症、尿管・膀胱子宮内膜症、腸管子宮内膜症、臍子宮内膜症)の集学的治療のための分類・診断・治療ガイドライン	「難治性稀少部位子宮内膜症(肺・胸膜子宮内膜症尿管・膀胱子宮内膜症、腸管子宮内膜症、臍子宮内膜症)の集学的治療のための分類・診断・治療ガイドライン作成」班
GL1616	脳卒中急性期患者への口腔機能管理法に関するガイドライン	日本老年歯科医学会
GL1617	早期胃癌診断のための内視鏡ガイドライン	日本消化器内視鏡学会
GL1618	痛風・高尿酸血症ガイドライン	日本痛風・核酸代謝学会
GL1619	腹膜透析ガイドライン(改訂)	日本透析医学会
GL1620	感染性心内膜炎の予防と治療に関するガイドライン(2018年改訂版)	日本循環器学会
GL1621	前立腺がん検診ガイドライン(改訂)	日本泌尿器科学会
GL1622	肺癌ガイドライン(改訂)	日本肺癌学会
GL1623	がんのリハビリテーション診療ガイドライン第2版	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室

X. 協会賞・奨励賞選考

1. 委員

担当理事 中西 秀彦（個人）

委員長 南 泰樹（聖マ医）

委員 石井 保志（東医歯大）、今泉 千代（日看協）、泉 峰子（科学院）、
森正 智子（昭和大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 9月27日

第2回 2月6日

2) 2016年度協会賞・奨励賞の選考

(1) 広報

2016年10月27日開催の理事会で「協会賞・奨励賞授与取扱い規程（改正案）」が承認され、11月1日付で施行された。特に、奨励賞については、活動についても候補対象となるため、改正された規程を協会ホームページに公開し、募集活動を行った。会員による応募（推薦）を促進するために、『医学図書館』および協会メーリングリストによる広報の他、『Medlib-J』（医学図書館、医学・医療情報について情報交換をするためのメーリングリスト）による広報活動を行った。

(2) 協会賞・奨励賞候補業績の選考

第2回選考委員会で候補業績を選考し、理事会に報告を行った。

3. 今後の課題

- 1) 新規程に基づく協会賞・奨励賞の応募結果、選考過程および選考結果について分析し、今後の望ましい選考のあり方を探っていく。
- 2) 会員からの応募（自薦）のみならず、各委員会、地区会、理事会等からの推薦を促進するための方策を検討する。

XI. 国際交流

1. 委員

担当理事 諏訪部 直子（杏大医）

委員長 佐藤 晋巨（聖路加）

委員 玄馬 寛子（倉敷中病）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 11月30日

2) 米国医学図書館協会（以下、MLA）との連携

(1) 米国医学図書館協会 2017年次大会 国際交流派遣者の公募

2017年5月26日～31日に米国のシアトル市で開催される米国医学図書館協会（以下、MLA）の年次総会に参加し、他国の図書館員等と国際交流を行い、医学図書館員としての知見を広げるとともに、将来、日本医学図書館協会（以下、JMLA）と米国医学図書館協会（以下、MLA）の間の交流に貢献できる会員を育成することを目的に国際交流派遣者1名を公募した。応募者はいなかった。

(2) 相互に出版物を交換

MLAとの2者協定に基づき出版物を送付した。

3) 韓国医学図書館協議会（以下、KMLA）との連携

(1) 2016年度第87回JMLA総会へ来賓2名を招聘

学術集会の研究発表の部において「Systematic search of EBM in KOREA」を発表した。正会員Aの和歌山医科大学図書館、および和歌山医科大学附属病院の見学を行った。来賓2名の他、事務局員Kim HeaYoung氏が今年度計画している日本の図書館見学ツアーの打ち合わせのため、オブザーバーとして参加した。

(2) 2016年度KMLA秋季学術大会へ理事と会員の2名を派遣

大会開催日程：2016年10月13日(水)～15日(土)

派遣者

富田 麻子 理事（日医）は開会式にて挨拶を行った。

松田 真美 氏（医中誌刊行会）は「「医学中央雑誌」のご紹介ー日本の医学論文情報提供事業の歴史と今ー」を発表した。

オブザーバーとして佐久間 せつ子氏（医中誌刊行会）が同行した。

(3) 日本図書館見学ツアーの開催

開催期間：2016年11月9日（水）～11日（金）

聖路加国際大学学術情報センター、聖路加健康ナビスポット：るかなび、東邦大学医学メディアセンター、神奈川県大和市文化創造拠点、図書館総合展を見学した。参加者は4名であった。懇親会には会員7名が参加した。

(4) 2017年度第88回JMLA総会へKMLA会員2名の招聘の準備を開始

4) 英語ホームページ更新

海外の図書館員を対象に、協会の活動を広報するための英語ホームページの更新を行った。

(1) JMLA関連名称の英語表記の改訂

(2) 中長期重点目標の英訳

3. 今後の課題

1) KMLAとの連携

2) MLAとの連携

3) 台湾医学図書館学会（Taiwan Medical Library Association）との連携

4) 英語での国際交流活動の情報発信

ⅩⅡ．組織・制度

1. 委員

担当理事 尾崎 聖太郎（麻布大）

委員長 新谷 知之（東海大伊）

委員 加藤 恵子（国がん）、土佐 智義（個人）、森戸 重男（獨協医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 7月25日

第2回 9月28日

第3回 11月28日

第4回 1月30日

2) 規程、細則等の審議

以下の規程等の改正案を作成し、理事会に提出した。各改正案は、理事会で審議・承認の後、施行した。

「日本医学図書館協会ロゴ利用規程」「JHIP/ヘルスサイエンス情報専門員ロゴ利用規程」「協会賞・奨励賞授与取扱い規程」「研究助成費給付規程」「海外研修助成給付規程」（2016年11月1日施行）

「部会規程」「部会内規雛形」（2017年3月1日施行）

3) 刊行物著作権に関する内規について

著作権処理に係る規程はいずれ設けることとし、当面は「著作権譲渡 承諾書」をもって進めることとした。

4) 表記の統一

申請書等の提出方法を規定した条項の表記統一について検討し、「入会及び退会に関する細則」「日本医学図書館協会所有電子資料利用規程」「他機関との協力に関する内規」について修正した。

3. その他の報告事項

1) 本会「要覧」の規程部分の原稿責任者

これまで、企画・調査委員会が担当していた要覧編集作業の負担を軽減するため、次回発行から規程部分は組織・制度委員会が原稿を作成することとなり、原稿責任者は委員長が担当することとした。

また、規程類の改訂及び制定が生じた場合は、2年に1回となった要覧の発行を待たずに、その都度本会ホームページにアップする手続を行うこととした。

4. 今後の課題

1) 規程等の改正及び制定

2) 理事職務表、担当委員会表及び委員会記載順序表の集約化

3) 用語・表記の統一

4) 規程全般に渡る整合性の確認・体系化

ⅩⅢ. 部会 病院部会

1. 委員

幹事（連絡担当） 佐藤 正恵（個人）

幹事 泉 峰子（科学院）、加藤 恵子（国がん）、春日井 泉江（個人）、
高崎 千晶（個人）、満岡 侑子（連中）、玄馬 寛子（倉敷中病）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 定例会の開催

5月27日(金) 於 ホテルアバローム紀の国（和歌山市）

参加者数：14名

内容：2016年度事業（幹事会・見学会開催地の検討）

2) 見学会の実施

2月24日(金)

東邦大学習志野メディアセンター、千葉県済生会習志野病院図書室

参加者数：46名 内訳：JMLA会員30名 非会員16名

3. その他の報告事項

幹事交代：奥出 麻里（千葉MC）、安田 多香子（愛知がん）が退任し、春日井 泉江（個人）、高崎 千晶（個人）が着任した。

4. 今後の課題

1) JMLA/JPLA コンソーシアム病院部会の今後について検討

2) 見学会の実施

3) 研修会の実施

4) メーリングリスト等による情報交換